



報道陣に公開されたチェリーの通関検査

加州産チェリー

ビンググ始まり最盛期へ

今季は 安定入荷 ローヤルが解禁30周年PR

米カリフォルニア産チェリーが出荷最盛期を迎えた。今週末から主力のビンググ種中心の供給になり、6月上旬にかけて販

売が本格化する。青果輸入商社の(株)ローヤル(本社・京都市)は、カリフォルニア産チェリー輸入解禁30周年を前面に打ち

出し、商戦を盛り上げる方針だ。過去3シーズンは、降雨の影響で生産量が減少したり、干ばつによる生育前進で最需期の5月末から6月上旬に供給量が減るなど需給がかみ合わず、他品目に売場を奪われるという事態を招いた。

しかし今季は、冬の降水量が多く、休眠時間も十分に確保できたため、各産地で良好な着果状態

となった。さらに出荷期に入ってから雨の影響を受けず、順調な供給が続いている。4年ぶりの供給安定を受け、今月14日の「母の日」を境にチラシに掲載して積極的に販売する量

販店が増え始めた。もともと消費者から支持されている人気商材だけに、着実に売場面積が拡大しつつあるという。「輸入解禁30周年のPOPを活用し、販売を盛り上げた」と(ローヤルの上田豊人執行役員)。

今月18日にはビンググ種の初荷が日本に到着。これから10日間の現地天気予報で雨の予報はなく、今週から順調に増量する見通しだ。今月19日時点の日本への入荷量は、約13万3000カートン。過去3シーズンは30万カートン前後の入荷にとどまったが、今季は40万カートン程度まで実績を伸ばしそうだ。

18日には、大阪税関関西空港税関支署がカリフォルニア産チェリーの通関検査風景を報道陣に公開した。ローヤルの担当者「初夏の味覚を味わって」とPRし、同社が作製した輸入解禁30周年のPOPを紹介した。